

(規則) 様式第 7 (第 7 条関係)

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和 7 年 7 月 16 日

犬 山 市 議 会
議 長

様

議員名 大沢 秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和 7 年 7 月 8 日 (火) ~ 令和 7 年 7 月 9 日 (水) (1泊2日)
(2) 場 所	熊本県天草市、熊本県八代市、熊本県熊本城
(3) 形 態	会派 (創成会) : その他 ()
(4) 内 容	。別紙にて、視察地ごとに報告します
(5) 成果・提言	。別紙にて、視察地ごとに報告します



政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

犬山市議会 議長

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和7年7月8日（火）

訪問先：熊本県天草市

形 態：会派視察（創犬会）

調査項目：「公共施設の再配置について」

調査の内容

天草市は平成17年に2市8町が合併、120もの島がある熊本県の市である。約684㎢という広大な面積に、人口は約7万1千人と、本市と同程度の規模で、風光明媚なバランスのいい市ではあるが、合併前の旧市町それぞれから引き継いだ公共施設が膨大な数に及んでおり、加えて人口減少等により利用需要は下がっているため、ファシリティマネジメントの観点から、全庁を挙げて財政負担の軽減、平準化及び公共施設の最適な配置の実現に取り組む必要がある。

公共施設に係る経費を大幅に削減するという基本方針の下、ポートフォリオ評価により各施設の方針を設定し、従来の「あれば便利」から「賢く有効に使う」と、公共施設への意識を変え、「縮小充実」の考えに基づいて整理・統合・複合化を進めるといった流れについて学ばせていただいた。

公共施設の廃止にあたり、単に廃止という結論で未利用のまま普通財産として残らないように「所管替え」「民間譲渡」「貸付」「売却」「解体」等の具体的な結論とその対応時期を決定し、施設の廃止が進められているとのことだった。

学校および保育所の再配置について、人口減少と少子化、それに加えて過疎化に対応が求められる喫緊の課題だった。スクールバスを活用した学校の統廃合が「複式学級の解消」を最優先に進められており、保育所については、民間活力を最大限に活用する計画に基づいて、比較的早い時期から進められてきた。

犬山市への提言

犬山市においても、「公共施設の再配置」は進められるべき重要な課題であり、もっと大胆に進めてもよいのではないかと考えることが多々ある。例えば小中学校の統廃合である。実行するまでは賛否両論があつて波風が立つこともあるとは思いますが、実行してみれば、弊害はないと思う。決断も必要であると考えている。

市民が行政に求めることは多様化、複雑化しているが、住民サービスを効率的に行い、効果を上げることは必須である。計画を作る段階で確固たる根拠を持ち、丁寧に進めるプロセスを確立して、再配置を進めるべきだと考える。

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

犬山市議会 議長

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和7年7月9日（水）

訪問先：熊本県八代市

形 態：会派視察（創犬会）

調査項目：「スマートシティについて」

調査の内容

八代市は平成17年8月に1市2町3村が合併し、20周年を迎える自治体である。約681㎢という広大な面積で人口は約12万人。熊本県第2の都市である。

第2次総合計画の具体的な事業として、「八代市デジタル化推進基本計画」が策定され、市長を本部長とする推進本部以下の推進体制が組織された。「重点取組」として、防災、市民サービス、医療・保健・福祉、農業について、デジタル化による改善を図っていこうという個別施策が計画された。

八代市がDX推進に本格的に踏み出すきっかけとして、令和2年7月の熊本豪雨災害が契機となったということで気の毒には感じたが、災害時だけでなく平時にも活用できるシステム（スマート避難所システム）を危機管理課が構築したのを手始めに、市民がDX施策に慣れていただくことから推奨している。

災害によって無医村状態になってしまった坂本町地区に医療診断車を活用したオンライン診療が実施された。これはハイエース10人乗りを医療MaaSにカスタムした車両を活用しており、効率的なルートを回りながらの往診とオンライン診療が可能な事業であった。

スマート農業は、県・市・JAが協力し、元気な農業者が率先している取組で、事務処理アプリのプログラミングにより、事務作業・経理作業の軽減等が行われた。一般社団法人として自走し始めた先進事例である。

犬山市への提言

犬山市においても、DX推進が重要との指摘を議会から行っており、それに併せてBPRを行っていく必要があると提言しているところである。八代市の取組はその点において、多くの分野の個別施策がターゲットに入っているということが先進的であり、意欲的であると感じた。本市にも期待したい。

特に感心したのは、スマート農業の取組であり、「担い手不足」「耕作放棄地の増加」「農村景観の悪化」等の深刻な問題を、明るく楽しく乗り越えていこうという意欲が、JAの共感も得て進んでいることであり、参考にされたい。

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

犬山市議会 議長

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和7年7月9日（水）

訪問先：熊本県熊本市（熊本城）

形 態：会派視察（創犬会）

調査項目：「震災からの復興の取組と復興状況について」

調査の内容

熊本城は平成28年4月の熊本地震による震災を受け、瓦が落ち、石垣は崩れ、壁は落ちる等々の甚大な被害を受けた。特に小天守は石垣が崩壊し、外周部が大きく沈下した。テレビをはじめとする報道によって、私たちはその様子を目にして愕然とした覚えがある。震災からの復興にあたり、熊本市民が町のシンボルである熊本城の復興を何よりも望んだというほど市民から親しまれている熊本城の復興状況について現地を視察調査した。

特に注目したいのは、激しく崩れ落ちてしまった石垣の復旧に向けた取組である。石門付近の石垣は、令和4年になってやっと崩落した石材を改修することができた。令和6年、江戸時代の配水経路などの把握を目的とした調査を行った。今後の復旧スケジュールとしては、令和9年度に変形した石垣の解体を行い、令和13年度から石垣の積み直しを行う予定。現在は、崩れた石垣をどのように復旧するかを検討を行っている。

犬山市への提言

犬山市においても、大きな地震はいつ起こるか分からず、南海トラフ巨大地震に連動する震災を受ける可能性は十分にある。犬山市のランドマークである国宝犬山城は、これまでも数回の大地震を乗り越えて現存しているが、老朽化が進む木造建築であり、被害を受ける想定をしておく必要があると考える。

特に明治24年の濃尾大地震により、天守の西側2間通りが石垣とともに崩壊し、東南隅の附櫓も倒壊したため、官民一体の募金活動と旧城主成瀬家の協力で大規模な修復が行われた経験がある。

その後、犬山城は国宝になり、現在は城一帯が史跡指定もされたことから、万が一の被災の場合には国の指導を受けて対応されることと思われるが、日常の管理及び整備を担う犬山市として、適切な対応を行わなければならないため、熊本城の復興の事例なども参考にされたい。